

あき山た話

この部屋に 金火 消灯 調光 常夜 燐灯

のスイツケのあつる電灯があり 今秋を待つて

ビニールのよう層かさおめる

夏場 虫おとんど来てかさの甲に入る

去年はかそえきと等しいほどかさの甲に虫が

入いてい

今年は何もついでにせいか 花のたのしみ

お午 下履湘光の層灯の下をぬり

ちよつとプフ節りていよろん欠え

生きたりこのだろく

電灯のねつであつて麻巾着のあもこ

等しい かねりの鱈代欠ついでに初め

どろおあかう

くも虫退くへ葉に 電灯のかさのあかり

いさく ちよめおあへ入る

かさの甲にエサにちよ虫おりおが 何おあ

しつれお くも虫あつておわおあ

か ちよりちよちよていおが ちよちよ

遠くへ行くつてちよつ

明日の朝は あつかり動けるよ

うきうきとわあ

笑を見て 笑つてる習性があるわ
きり 来年

新しい気持ち

何れの中へ入るぞと
かまふ事か

病を克服する
「かわいそうね」

その一歩と
かかると来

手ごたえ
パン

又失敗

2020
1/1